

現在、京大では組織改革の嵐が吹き荒れている。それは、部局から人事権を剥奪し、小さな部局を廃止してしまおうというようなものであり、京大総長はじめ執行部にさらに大きな権限を持たせようというものに見える。しかも総長・執行部の任期が尽きかけており、焦って組織改革を遂行しようとしているのである。それが大学を良くしようと言うものであればまだ理解できるが、どう考えてもそうは見えず、とにかく改革を行い、文科省に媚びを売って予算を取ってくることや定員削減をやり易くすることのみが目的であり、研究・教育にとってより良いシステムに改革しようというような理念は全くも何も伝わってこない。そのために我々教員が何と多くの時間を割かれていることか。以前にも増して会議が増え、書類作りに何倍も時間をかけなければならず、研究に中々時間が割けないと感じている教員が非常に多いのではないかと思う。各部局の現状が、どうしても改革すべきものならば改革もやむなしであるが、現状として評価の非常に高い部局も少なくなく、またうまく機能している部局がほとんどである。壊すことはたやすいが、一度壊してしまったものを元に戻すことは決してたやすくはない。それはこれまでの歴史や数々の最近の例を見ても明らかである。もちろん各部局の現状にも、研究・教育の両面からよいシステムに改良すべき点はあるだろう。大勢の人たちの大変な労力をかけているのであるから、いずれ改革をしなければならないのであるならば、みんなが納得できるような実のあるものにして欲しいものである。ただとにかく変えれば良いとか、何か変えさえすれば業績になるというのでは、どこかの政治家や官僚がやっていることと何も変わりがない。しかも改悪となったとしても誰も責任をとらないのである。そのようなことにならないよう、執行部の良識に期待したい。

(K.Y.)